

## 6/12 使徒の働き 4章 1-22 節「キリスト以外に救いはなし」

小池宏明牧師

ペンテコステの後、ペテロとヨハネが生まれつき足の不自由な人を「イエス・キリストの名によって」癒し、キリストの十字架と復活を宣べ伝えたことから、ユダヤ人指導者たちの苛立ちが大きくなった。

### \*ペテロたちの確信

ついに、ペテロとヨハネは、ユダヤ人指導者たちによって逮捕されてしまう。この指導者たちが、イエス様を十字架に追いやった人たちでもある。7節「彼らは二人を真ん中に立たせて、「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか」と尋問した。」この時、ペテロたちは、処刑する権力を持っている人々を恐れることなく、助け主なる御霊の力を頂いて、大胆に主イエス・キリストを証しした。8-12節「そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。・・・ 12節 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

### \*多様化する価値観の中で

今日の説教題は、12節のペテロの宣言から、「イエス・キリスト以外に救いはなし」とした。私たちも、誰に対してもこのようにはっきりと宣言することができるだろうか。現代は、多種多様な価値観が尊重され、認められる時代になった。キリスト者であっても、それぞれの民族の歴史や伝統、宗教について否定することなく、聞く耳を持ち、心を広くして、偏見を取り除き、平和を作る者でありたいし、そうすべきだ。

しかし、どんなに、人々から排他的に見えたとしても、12節に明言されている救い主イエス・キリストへの確信は、曖昧にしてはならない。私たちの救いは、ただ、イエス・キリスト「のみ」にかかっているのだ。

この事をお伝えする一番いい方法は、自分自身に起きた事実を証しすることだ。私たちにも、聖霊なる神様が力強く臨み、自分の罪深さに気づき、救い主の許に立ち返った体験があるだろう。それは私たちそれぞれ自分自身の経験だから、誰からも否定されることはない。誰にでも、どんな時であっても、イエス様との出会いを、証言できるように備えておこう。